

好奇心が行動力の源

きたかみ未来創造会議メンバー

高橋 由紀子さん

平成23年からの新しい北上市総合計画の策定に、市民が主体的に参加する「きたかみ未来創造会議」は6月18日、同計画の基本計画に関する提言書を伊藤市長に提出しました。メンバーを代表して提言書を手渡したのは、高橋由紀子さん(和賀町長沼)。20年11月から22年6月の間に開催された全20回の会議に欠かさず出席しました。

参加の目的は、みんなで話し合う場の作り方を学ぶこと。地区の自治会事務局などを引き受けているため、誰もが自由に意見を出し合える方法を常に考えているそうです。笑顔が絶えない高橋さんですが、会議にすべて出席したことは「当たり前前のこと」と言い切る姿勢から、強い信念がうかがえます。「何をすることもみんなで決めることが大事。そして、一人ひとり責任を持つてもらいたい」と話します。グループワークを中心に進



められた会議では、基本構想のほかまちづくりの成果を表す具体的な指標、市民・企業・行政の役割分担を協議。「本当にこれでいいのかと難しく感じることもあったけれど、楽しかった」と振り返ります。ただ、「前回の会議の復習が各自十分ではなく、その日の会議にエンジンがかかりにくかった」との指摘も。それでもまちの総合計画の策定に市民を交えたことで、今

後のまちづくりが変わっていくことに期待を寄せます。「この会議は、誰でも意見を言えるまちづくりの第一歩となったと思っています。その一歩目がこれから生かされることを望みます」
絵手紙の講師を務めるといふ一面も。市の出前講座にも市民部門の講師として登録しています。何でも好奇の目で見、仕事も趣味の一つと考える楽しむパワーの持ち主です。

数字に見る北上 ⑦④

34件



北上市に所在する指定文化財のうちの、無形民俗文化財の数です(国指定1件、県指定4件、市指定29件)。

地域の風土や人々の暮らしの中で生まれ、はぐくまれ、市民の基盤的な生活文化の特色を示す重要な財産、また自然景観など、特に価値が高いと認められる文化財は「指定文化財」として保護の対象になります。その中で衣食住、信仰、年中行事のような風俗慣習、民俗芸能などは、民俗文化財として国・県・市から指定されます。

北上市は民俗芸能の宝庫。地域で受け継がれ、大切に保存されています。各団体が一堂に会する「北上みちのく芸能まつり」(7日~)をお楽しみに!!

市内に所在する指定無形民俗文化財(H21.4.1現在)

指定	名称
国	鬼剣舞(和賀町岩崎・滑田)
県	和賀の大乗神楽(和賀町煤孫・村崎野・二子町)、春田打(下江釣子)、煤孫ひな子剣舞(和賀町煤孫)、道地ひな子剣舞(和賀町藤根)
市	台笠(滑田)、荒屋田植踊(上江釣子)、御免町鬼剣舞(下江釣子)、立花念仏剣舞、立花八土踊、後藤奴踊、切留田植踊(和賀町仙人)、横川目神楽、谷地鬼剣舞(上江釣子)、全明寺盆踊(上江釣子・下江釣子)、中野大神楽(和賀町藤根)、北藤根鬼剣舞、横川目上場盆踊、夏油神楽(和賀町岩崎)、横川目表田植踊、煤孫中通り田植踊、飯豊鬼剣舞、二子鬼剣舞、口内鬼剣舞、相去鬼剣舞、鬼柳鬼剣舞、更木神楽、綾内神楽(口内町)、口内薩摩奴踊、行山流口内鹿踊、鳥喰太神楽(二子町)、口内田植踊、鳩岡崎座敷田植踊、伊勢流黒岩太神楽



話題の本

中央図書館 ☎ 63-3359

江釣子図書館 ☎ 77-2215

和賀図書館 ☎ 72-2322

おしゃべりな五線譜 かがや みき
 ゴリラのるごちゃん 香谷 美季
 子どもにおくる私のどきどきした話 神沢 利子
 人間キラキラの会
 なんのおと なつ (きせつのえほん)
 ビゲン セン
 龍馬の油断 幕末七人の侍 津本 陽
 預言 ダニエル・キース
 水木しげるゲゲゲの大放談 水木 しげる
 私たちには物語がある 角田 光代

《7月の新着本から》

『パパ、おばけがいるよ。』

ヒド・ファン・ヘネヒテン 作
フレール館

ヨアヒムはちよっぴりこわがりやさん。子どもの「こわい！」を笑顔に変えるとおきのはなしです。おやすみの前にぜひ読んでほしい絵本です。

『百姓探訪』

立松 和平 作家の光協会

現代の元気な農村ルポであると同時に、家族のきずなをめぐる物語集。「農業は人生を再生する力がある」という言葉を重く受け止めてください。

きたかみ物産館



北上コロッケ定食 780円
食堂営業時間 午前11時30分～
午後1時

ふるさと体験館「北上」

和賀町山口23-24-5
☎ FAX 72-2883

みそ味、カレー味、塩コショウ味
だれもが食べたくなる庶民の味
北上コロッケ定食



調理師 照井多都江さん

三つの味が楽しめます
職員みんなで試行錯誤、最後はこの三つの味に！
下味をしっかり付けているので、ソースをかけずにもいただけます。肉の量も多めで、おなかにずっしり。
具材のアスパラにも地元岩崎産を使用。入荷しない場合は作らないという徹底ぶり。地産地消にこだわります。

散歩道

122

北上市長 伊藤 研

三門峡市訪問

上海万博で喧噪の5月中旬、友好都市25周年を祝うため5年ぶりに三門峡市を訪れた。

中国は北京オリンピックに続き、上海万博の開催と国威掲揚のためすさまじい経済成長戦略を続けていた。

ある人はバブルと感じ、ある人は世界をリードする経済大国への兆しと表現していた。高速道路や高層ビル

マンションの異常なスピードでの建設は、毎回の訪中

で実感していた。三門峡の発展にも興味を持つての訪問であった。

発展の象徴「新幹線」の乗り心地は良かったが、そのスピード感に車窓からの風景をゆつくり楽しむことができなかった。新駅に降り立ち、開発された周辺の新しい街を見て、わたしは25

年前の友好都市調印式時に思いが戻った。古い街並み、田園風景、あふれる自転車、人々の服装、日本より20年以上遅れている建設作業現場の風景はどこにも見当たらない。6回目の訪問で街の都会化の変遷を追想して感慨もひとしおであった。

記念式典や公式会談では「老朋友(古い友達)との出会いもあり、「二衣帯水」が引用され、今後一層の交流を確認しあった。

鬼剣舞のモニュメントがある友好公園では、10年前に記念植樹された桜やヒマラヤスギが成長していた。

北上市が贈呈した高台のあずまやから見る風景は、中国の成長の勢いと年月の重みを感じさせられた。今回もかわいい子どもたちと記念植樹をして、次の成長に思いをつないだ。三門峡市長との公園散策の中で、樹木の年輪は交流の深さを感じさせ、227万都市と発展した三門峡市の謙虚さも感じた。北上が贈ったリングと先輩たちの取り持つ縁は、甘く優しく育っていた。